

山口宇部医療センター

【施設概要】

当院は、設立当初、国立療養所山陽荘の名前で多くの結核患者さんの診療していました。結核患者数の減少に伴い、昭和43年から重症心身障害児（者）の療育を開始し、さらに呼吸器疾患の診療を積極的に行うようになり、また平成10年には緩和病棟を開棟し、がん診療に本格的に取り組むようになっていきます。平成20年に、国立病院機構山陽病院から現在の病院名「国立病院機構山口宇部医療センター（山口がん・呼吸器センター）」と変更しています。



山口県より「特定領域がん診療連携推進病院（肺がん）」の指定を受け、肺がんの予防から終末期までの全経過で専門的医療が行える診療体制をとっています。呼吸器疾患の診療では、県下唯一の結核入院病床を持ち、あらゆる呼吸器疾患や重症の患者呼吸器疾患に対応しております。重症心身障害児（者）の診療／療育では、新生児特定集中治療室（NICU）を退院した患児の診療を担う施設として、多くの超重症児、準超重症児診療を担当しています。また在宅の方を支援するため、通園事業、短期入所、日中一時支援も行っています。山口宇部医療センターは「患者の権利の尊重と最新の医学知識に基づく医療の提供」を理念とし、「がんの診療、呼吸器疾患の診療、重症心身障害児（者）の診療／療育」の三つの柱を掲げて日々診療を行っております。

【放射線科について】

当院放射線科は、放射線科医師3名、診療放射線技師7名、事務職1名、計10名で担当しています。装置は、一般撮影装置2台、ポータブル装置5台、乳房撮影装置、X線TV装置、骨密度測定装置、CT装置、放射線治療装置を有しております。早期の肺がんや、その他の肺疾患を見つけ正確な診断と治療を受けられるように、低線量CTによる肺がん検診にも力を入れております。

【施設周辺環境】

山口宇部医療センターは、宇部市の山口市側の端の瀬戸内海に面した小高い丘の上に位置し、春には見事な桜並木を楽しむことができるなど、四季を通じてすばらしい景色を堪能できます。また宇部市ではエヴァンゲリオンのTVや映画シリーズで監督を務めた庵野秀明先生の出身地であることにちなんで、『町中エヴァンゲリオン』という企画を行っています。また3年連続で宇部市がエヴァンゲリオンシリーズの聖地として認定されました。ロンギヌスの槍がときわ公園に刺さっていたりしますので皆さんエヴァンゲリオン聖地巡礼などしてみてもいいかもしれません。

